

2000年出土の木簡



(横須賀)

本調査は住宅建設に伴う事前調査で、まず杭打ち箇所を先行調査（第Ⅰ次調査）し、杭工事終了後に本格調査（第Ⅱ次調査）を行なった。調査面積は一〇〇m²である。検出された遺構は若宮大路東側の南北溝や柱穴などであり、大路に関わ

1	所在地	神奈川県鎌倉市雪ノ下二
2	調査期間	一九九〇年(平2)七月-
3	発掘機関	鎌倉市教育委員会
4	調査担当者	瀬田哲夫
5	遺跡の種類	中世都市跡
6	遺跡の年代	一二三世紀中葉-一六世紀
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	北条泰時・時頼邸跡は鎌倉市街地の中心 ○m、鶴岡八幡宮の南、若宮大路の東に位

、鎌倉駅から北東約六〇
置している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「。蘇民将来子孫家也急□〔々カ〕律令

245×47×7 051

(2) []

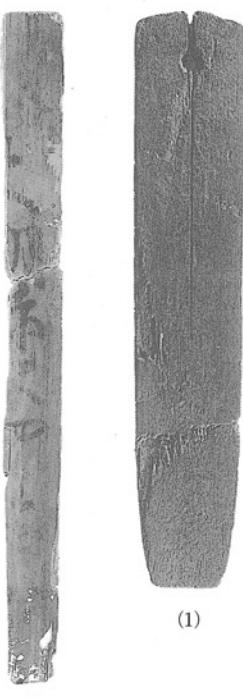
286) × (25) × 9 081

(1)は完形である。(2)は下端・左辺を欠損する。

9

鎌倉市教育委員会『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』七（一九九一年）
（瀬田哲夫）

(瀬田哲夫)



(2)

る新たな資料が得られている。南北溝は掘り直しや浚渫を繰り返しており、堆積状況から一六条を確認している。遺物としては素焼皿（かわらけ）・貿易陶磁器類・国内諸窯の製品・石製品・金属製品の他、多種多量の木製品が出土している。木簡は二点で、(1)は南北溝の五溝、(2)の木簡は六溝から出土している。両溝は一四世紀中葉以後葉に廃絶したものと考えられる。

木簡の穿孔位置

二条大路木簡に、天平八年（七三六）の年紀をもつ京職の進上木簡が数点ある。このうち日付が四月の木簡は、いずれも穿孔がある。穿孔の位置は、木簡の大きさに関係なく上端から1cm弱で共通し、規格性を感じられる。一方、左右のバランスは、木簡の中心のものもあるが、右にずれるものもある。中心に穿孔のある木簡は、文字がやや中心からずれていたり、穿孔より下から文字が書かれているため、穿孔によって文字が失われないものである。それでいるのは、中心に穿孔すると記載内容が失われる場合であり、文字をよけて穿孔していたらしい。

一方、日付が六月や八月の木簡は穿孔がない。正月の木簡は穿孔の上端からの距離が異なる。天平八年四月付けの京職進上木簡の出土が多いJF一〇地区で、年紀のない四月七日付け右京職進上木簡が出土しているが、この木簡は下端に穿孔がある。この木簡も天平八年だとすると、四月七日と八日の間に変化があつたことになる。こうした穿孔の違いは、事務処理の変化を感じさせるが、事務担当者が交替したのだろうか。ちなみに長屋王家木簡では特に文字部分の穿孔を避けた形跡は乏しい。一見無造作な穿孔の位置にも、理由がある場合もあるようだ。

（馬場 基）

